



写真1 黒曜石の産地「栃木県高原山」



写真2 高原山産の黒曜石で製作された
尖頭器(さいたま市立博物館蔵)

かわはく No.35

CONTENTS

平成21年度特別展「埼玉圏の原始・古代人」……………2
 企画展「カエル・かえる・蛙」開催報告……………4
 かわはくサタデーミュージアムからの報告……………5
 スロープ展示からの案内……………6
 秋期企画展のお知らせ……………7



平成21年度
特別展

「埼玉圏の原始・古代人」

● 開催期間 平成21年7月18日(土)～8月31日(月) ●

特別展示

埼玉県内では毎年多くの遺跡が発掘され、大量の遺物が出土しています。出土した遺物は、はるか昔に埼玉県に暮らしていた人々が、どのような生活をしてきたのかを私たちに教えてくれます。ところが、時として埼玉県から遠く離れた地域のモノが見つかることがあります。では、出土したモノはどうやって埼玉の地へと運ばれてきたのでしょうか？

今回の特別展「埼玉圏の原始・古代人—人の動きをモノから探る—」では、埼玉県外から運ばれてきたモノを中心に展示します。モノの移動は、埼玉県に暮らしていた人々の生活、つまりヒトの動きを示しており、県外との交流を知ることができます。

先史・古代には、現在の埼玉「県」は存在していませんでした。そのため本特別展では、現在の埼玉「県」にあたる地域を埼玉「圏」として扱い、埼玉「圏」内に運ばれてきたモノを時代ごとに展示、紹介していきます。

1. 船と河川交通

川を移動するためには舟が必要です。日本で見つかっている最も古い舟は、縄文時代の丸木舟ですが、木で作られた舟は土の中で腐ってしまい、発掘調査で出土することはほとんどないのが実情です。

また、弥生時代以降では、船が描かれた土器も出土しています。描かれた船は、海に漕ぎ出す大きな船をイメージさせるものです。

2. 旧石器時代

旧石器時代では、海を隔て100km以上離れた東京都神津島の黒曜石が埼玉県内まで運ばれています。動物を捕らえるためには、切れ味の鋭い石器が必要です。ところが石器を作るのに適した石材は埼玉県にはありません。旧石器時代のコーナーでは、各地の石材と、遺跡から出土した石器を展示します。

3. 縄文時代

縄文時代では祈りの道具が作られるようになります。赤城遺跡出土の遮光器土偶は東北地方から運ばれたものと考えられます。

縄文時代のコーナーでは、埼玉県外から運ばれてきた土器や石器のほか、鮫の歯や貝で作られた首飾りなどの縄文人のアクセサリを展示します。



丸木舟出土状況（伊奈町伊奈氏屋敷跡）



土器に描かれた船（さいたま市篠山遺跡）



遮光器土偶（左：鴻巣市赤城遺跡 右：熊谷市諏訪木遺跡）



4. 弥生時代

農耕が始まる弥生時代、鉄や青銅などで作られた金属器が使われるようになります。朝霞市向山遺跡から出土した鉄斧は、鑄造製と鍛造製の2つがあり、このうち鑄造製の鉄斧は中国大陸で作られたものであることがわかっています。

5. 古墳時代

畿内では前方後円墳が作られ始め、埼玉県内にも埼玉古墳群に代表されるような大型の前方後円墳がつくられるようになった時代です。県内には見られないような装飾性に富んだ東海系の土器なども出土し、全国各地からモノが運ばれてきた様子がうかがわれます。

6. 飛鳥・奈良・平安時代

律令国家体制が築かれる7世紀後半から、モノの移動はさらに盛んになります。なかには、奈良三彩と呼ばれる、限られた階級しか所有できなかったモノも出土しており、注目されます。

講演会とワークショップ

本特別展に関連して講演会・ワークショップを開催します。各イベントは予約が必要となります。詳しくは当館までお問い合わせください。

●講演会

本特別展に関連した講演会です。旧石器時代から古代にかけて、各時代の専門家の方にモノの移動と交流についての講演を2日に分けて講演して頂く予定です。講師の先生と日程は以下の通りです。

7月25日(土) 13:00~16:30

旧石器時代の生活とモノの移動	栗島義明氏
縄文時代の生活とモノの移動	鈴木徳雄氏
弥生時代の生活とモノの移動	柿沼幹夫氏

8月1日(土) 13:00~16:30

古墳時代の生活とモノの移動	大谷 徹氏
奈良・平安時代の生活とモノの移動	田中広明氏
古代武蔵国における河川交通について	井上尚明氏

各回定員80名 会費無料

●ワークショップ

また、関連するワークショップとして、「古代人のアクセサリを作ろう」を開催します。滑石で作る勾玉は、時間をかけて磨いただけ光沢のある仕上がりになります。午前・午後の2回、各1時間半程度を予定しています。

8月22日(土)

①10:30~12:00 ②14:00~15:30

各回定員 32名 材料費300円

(研究交流部 羽田武朗、環境担当 近江 哲)



鉄斧 (朝霞市向山遺跡)



東海系の壺 (志木市西原大塚遺跡)



復元された奈良三彩 (鶴ヶ島市若葉台遺跡、羽折遺跡)



ワークショップで制作する勾玉



企画展

「カエル・かえる・蛙」開催報告

3/20～5/10まで開催しました企画展「カエル・かえる・蛙」について報告いたします。

開発や都市化など環境の変化などで、身近な水辺から姿を消しつつあるカエルについて、レプリカ、生態写真、ジオラマ、映像などで展示しました。

埼玉県では13種のカエルが生息していますが、全種を写真、代表種はレプリカで紹介し、当館目の前のかわせみ河原で4月半ばごろになると鳥のような美声で鳴き交わすカジカガエルは、その様子をジオラマで表現しました。

カジカガエルは万葉の歌に登場したり、「かじか籠」とよばれる飼育籠を用い鳴き声を楽しむなど、いにしえから親しまれていた種です。カジカガエルをもっと身近に知っていただくように、大模型を製作しリバーホールに展示しました。

今回老若男女多数の方にご観覧いただき、様々



展示室内の様子

な声をいただきました。また、鳥取県の「カエル工房」さんには多数レプリカの貸与、大人気であったカエルグッズ販売で多大なるご協力をいただきました。ご協力いただいた各氏、各機関にこの場を借りてお礼を申し上げます。

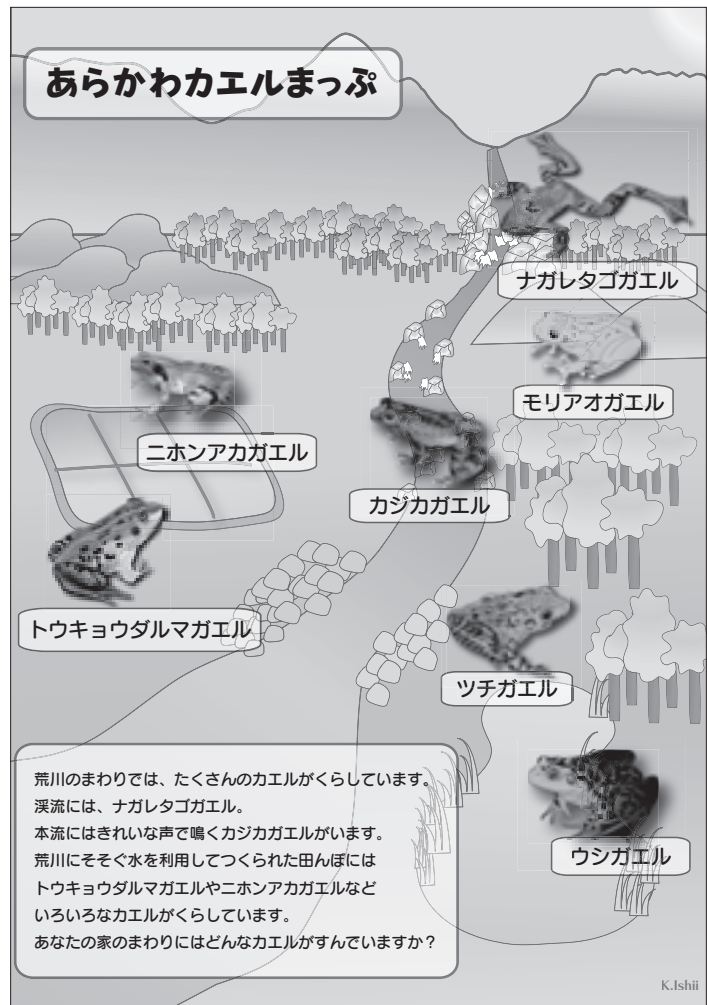
(研究交流部 藤田宏之)



カジカガエルの大模型



観察会の様子（ニホンアカガエルの卵塊）



K.Ishii



かわはくサタデーミュージアムからの報告

川の博物館では月に1回土曜日に自然観察教室や体験講座を開いています。
その中から今日は今年度開催された2つの「かわサタ」を報告します。

●かわせみ河原の生き物を探しに行こう

4月18日に「かわせみ河原の生き物を探しに行こう」を実施いたしました。

かわせみ河原にはどんな生き物がいるか参加者の皆さんの予想を聞き、その後実際にかわせみ河原に出かけて採集と観察をしました。

まずは川の中の石をめぐって生き物を見つけます。

次に河原の石がゴロゴロある場所で探し、最後に草が生えている場所で生き物を探しました。水の中から草の生えているところまで、河原はいろいろな環境があって、予想以上の



生き物がすんでいることがわかりました。草が生えると土ができてくることも勉強できました。

皆さんも今年の夏は「かわはく」にきて、かわせみ河原で生き物探しをしてみませんか？

(研究交流部 石井克彦)



観察の様子

●石と泥のアクセサリーづくり

5月9日には地質の日(5月10日)を記念して「石と泥のアクセサリーづくり」を行いました。アクセサリーづくりを楽しみながら、石や泥(土)のことを知ってもらおう、というのが狙いです。

石は荒川の結晶片岩を、土は赤い土と黒い土を樹脂で固め、小さく切ったものを材料としたので内部の観察ができるようになっています。観察には実体顕微鏡を使ってスケッチしてもらいました。スケッチは特に小さいお子さんには難しかったようですが、参加してくれた子供たちも、一緒に来ていただいたお父さん、お母さんも一生懸命顕微鏡を覗いていました。石の中にはキラキラと光って見える雲母を観察できたでしょうか?土の中のすきまや大小の土の塊が観察できたでしょうか?石については、石がいろいろな鉱物から成り立っていることなど、土は石(岩石)などが長い時間をかけて風化してできたものであることなど

の解説を行いました。

翌日が母の日であったこともあり、出来上がったアクセサリーをお母さんにプレゼントしませう、という子供も何人かいましたね。それぞれ世界にひとつだけのアクセサリーをつけて、時折石や土のことを考えてもらえれば、と思います。

(研究交流部 森 圭子)



観察の様子



スロープ展示 からの案内

川の博物館では本館第一展示室内のスロープにてミニ企画展示を行っています。ここでは現在展示中のものと、これから展示されるものについて紹介します。

「コウモリのひみつ」

川の博物館では、2011年春期企画展に「仮称・コウモリ展」を予定しています。その予告編として、本館第一展示室内のスロープにて展示の一部を紹介しています。

すみかは？えさは？日本に何種類いるの？冬眠するの？かわいらしいコウモリからちょっと怖いコウモリまで、身近な哺乳類であるがゆえに知られていないコウモリを紹介いたします。

また、人間とのかかわり、ぬいぐるみやグッズ、などの紹介もしています。あなたの周りにも意外とインテリアやデザインになってコウモリは隠れているかもしれませんよ。

夏休みを利用して皆さん是非見に来てください。「かわはく」でコウモリ博士になってみませんか？

展示協力：コウモリの会

(研究交流部 石井克彦)



コウモリグッズ



コウモリの体についての解説パネル

「川と宝石」

8月1日～11月30日（予定）で、スロープ展「川と宝石」を行います。宝石の産状と河川とは、切っても切れない密接な関係があるのをご存じですか？人類が最初に手にした宝石は、川原の礫の中れきから拾ったものだろうとされています。本展示では、川と宝石の関係について紹介します。

宝石の成因には、マグマから晶出するもの（エメラルド、トパーズなど）、熱や圧力を受けて形成するもの（ルビーなど）、熱水から形成するもの（オパール）などがあります。宝石産出国では、これらの産状の宝石を採掘することもあります。それ以外にも、川原の石や、かつて川や流れていたところにたまった石から宝石を採掘している場所もあります。

宝石として利用される鉱物は、硬度の高いものがほとんどです。ダイヤモンドはもっとも硬い石として有名ですが、サファイア、アクアマリン、水晶なども高い硬度を持っています。これらの原石は、川に流されても壊れないにくいために、砂利として残ります。そして長い時間をかけて河床に少しずつ堆積していき、川の流れが変わった後

もそこに残ります。このようにしてできた鉱床を漂砂鉱床ひょうさくこうじょうといいます。南アフリカのダイヤモンド、スリランカのサファイアなどは、漂砂鉱床から採掘される代表的な宝石です。

人の力だけで宝石を掘り出すのは、大変な労力です。気の遠くなるような時間をかけて川が運び、堆積させた宝石を、人類が利用しているのです。自然の力の大きさを感じさせられる瞬間です。

日本でも川から採れる宝石があります。奈良県二上山周辺のサファイア、長野県和田峠のザクロ石、新潟県糸魚川市のヒスイなどです。残念ながらいずれも採集される量が少なく、サイズも小さいため、カットしたり宝飾品に利用したりすることは難しいようです。また荒川の砂の中にも、本当に小さいかけらとして、宝石の粒が入っていることもあります。

この企画展とほぼ同時期に、埼玉県立自然の博物館では「鉱物の魅力」展を開催します。今年の夏は自然と川の博物館の両館で、鉱物と宝石に親しんでみてはいかがでしょうか。

(研究交流部 小林まさ代)



**** 秋期企画展のお知らせ ****

川と海を旅する魚たち

平成21年9月26日(土)～11月23日(月)



ただ今開店準備中!!
乞うご期待!

当店“回遊亭”の名前の由来は、川と海を行き来する「回遊魚」の専門店だから。
メニューは、「サケ」「アユ」「ウナギ」だけ。

食べて美味しい回遊魚たちの暮らしや体のしくみを紹介するから気軽にやっていって!

“回遊魚”って知ってる?

回遊魚は、一生のうち必ず海と川を旅する魚たちのことです。

企画展ではその代表魚“サケ”“アユ”“ウナギ”たちを紹介します!



逆河回遊魚代表“サケ”
川生まれ海育ち、母なる川にかえる。



両側回遊魚代表“アユ”
川生まれだけど一生の半分は海育ち!?



降河回遊魚代表“ウナギ”
海生まれ、川育ちですが…

会場：埼玉県立川の博物館（第二展示室）

共催：水辺の教育メディア研究会

協力：海と船の博物館ネットワーク、独立行政法人 土木研究所 自然共生研究センター
日本エヌ・ユー・エス株式会社

8月

7/18/土～8/31/月

特別展「埼玉圏の原始・古代人」

1/土 講演会「埼玉圏の原始・古代人」古墳・古代・河川交易編
講師：大谷 徹氏、田中広明氏、井上尚明氏
時間：13：00～16：00 費用：無料（入場料のみ）
定員：80人（申込順）☎
内容：古墳・奈良・平安時代のモノの動きや古代の河川交通について各分野における専門家の話を聞くことができます。

2/日 水の日記念イベント「利き水大会」
時間：10：30～12：00 13：30～15：00
内容：水の飲み比べなどの体験を通して水について学びます。

11/火 かわはくで遊ぼう「水鉄砲で風鈴をならそう」
時間：10：30～12：00 14：00～15：30
費用：100円 定員：各回32人（申込順）☎

21/金 かわはく体験講座「伝統漁法」
時間：10：00～12：00 14：00～16：00
費用：400円（保険料）
定員：各回50人（申込順）☎
内容：投網など荒川流域の伝統漁法を体験します。

22/土 かわはくサタデーミュージアム「古代人のアクセサリーをつくろう」
時間：10：30～12：00 14：00～15：30
費用：300円（材料費）
定員：各回32人（申込順）☎

9月

9/26/土～11/23/月

企画展「川と海を旅する魚たち」

12/土 かわはくサタデーミュージアム「顕微鏡で虫を見てみよう」
時間：10：30～12：00 14：00～15：30
費用：100円（材料費）
定員：各回25人（申込順）☎

20/日～21/月 かわはく秋のスペシャル days
時間：10：00～16：00
内容：一日たのしく遊んで学べるイベントを実施します。

20/日 かわはく体験講座「荒川の石の調べ方」
時間：13：30～15：30
費用：100円（保険料）
定員：20人（申込順）☎
内容：荒川の石の種類と石の調べ方について解説します。

かわはくで学ぼう!!

イベント情報コーナー

10月

11/日 かわはく体験講座「荒川の帰化植物と土壌環境」
時間：13：30～15：30
定員：32人（申込順）☎
内容：異なる場所の帰化植物と土壌環境について解説します。

17/土 かわはくサタデーミュージアム「草花でしおりをつくろう」
時間：10：30～12：00 14：00～15：30
費用：100円（材料費）
定員：各回32人（申込順）☎
内容：身近な草花で押し花カードを作ります。

25/日 かわはく体験講座「秋のウォーキング」
時間：10：00～14：30
費用：100円
定員：20人（申込順）☎
内容：自然を楽しみつつ散策し、利根大堰に遡上する鮭を観察します。

11月

1/日 あそび～まなびの日
時間：10：00～16：00
内容：まなびピアの一つとしてイベントを催します。

14/土 かわはく秋祭り－県民の日イベント－
時間：10：00～16：00
内容：一日たのしく遊べるイベントがあります。

21/土 かわはくサタデーミュージアム「ドングリで遊ぼう」
時間：10：30～12：00 14：00～15：30
費用：100円（材料費）
定員：各回32人（申込順）☎
内容：ドングリを使っていろいろな遊びを楽しみます。

29/日 かわはく体験講座「野鳥の観察」
時間：10：00～12：00
費用：100円
定員：20人（申込順）☎
内容：野鳥と環境の関わりについて解説します。

ホームページでも紹介しています!

<http://www.river-museum.jp>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。電話またはFAX、Eメールでお申し込みください。③定員になりしだい締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地
TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332
Eメール/web-master@river-museum.jp/



2009年7月8日発行